

孝和十一年子一四五年分

上方大八

大津威仁親王

只今齋國皇太子殿下へ晴敷う在
り皇太子殿下顔部、重傷あり及ハ
レ多し楊子軍皆直り出候アリと

岩手県
電報局
総局
其の
為

[Blank lined area for writing]

皇太子殿下
 御下
 御座
 御下
 御座
 御下
 御座

五月十七日午後二時五分

内務大臣

滋賀県知事

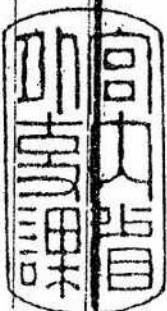
皇太子殿下御下只今当地に在る途中大急所ニ於テ浴傍
 配置ノ四重一名坂劍皇太子殿下御下御座類一切付ケタリ
 人ハ其佐持ニ就キタリ御劍ハ横三寸余御精神ハ確カニ
 才世壽負ニテ不取敢御座ニ御座ハ日歸リアラセラレ目
 下以藤沼中紀人ノ御座ハ本守山御座署諸田三藏ト
 云フ全ク精神狂ト此等ハ及ヒタリト恐入リ居レリ先
 尊聖御ハ該御座ヲ一刀切リ付ケ御座ニタリ何トモ恐入リタ
 以弟不取敢上申ス

兎行者津田三藏ヲ切付タルハ先途守啓書部
 ナル方電報致シ置レガ有ハ若書部ニ進スレテ皇
 國皇太子殿下ノ人カ車夫カ兎行者ヲ引倒
 シタル際有テ落セレカニテ他ノ車夫カ切付タル者
 ニ付正誤ス

五月十日 午後八時四十分

宮内大臣 滋賀縣知事

十時三十分着



五月十日 皇太子御着相成
五月十日 皇太子御着相成
五月十日 皇太子御着相成

五月十日 皇太子御着相成
五月十日 皇太子御着相成

五月十日 皇太子御着相成

五月十日 皇太子御着相成

五月十日 皇太子御着相成

五月十日 皇太子御着相成

五月十日 皇太子御着相成

五月十一日 五時三十分 度

宮内大臣

陸軍部 事務

露國皇太子殿下 賜座ニシテ 是等ノ上ニシテ 五十分ノ当地
被流車ニシテ 西京、御歸ナリタリ 停車場迄ノは 途程
人カ車ニテ 御徐行 御務也 ハタシカナリ 御座ニ 渡シ

五月二十一日午後四時

右内大臣

京都

滋賀のお事

露國皇太子殿下御遊幸ノ人カ車ニテ馬場御車場
ニ於テ五ノ時後京都御所ニ着テ無色ノ御車ニテ御車行
カウ侍従ノ者ニテ話ニテ馬車ニ召サレタリ

内務大臣

事務所

五月廿七日

早の大津に於て、貴人、おのれを重んじ、
子、目を引、及、以、微、儀、アリ、タ、レ、ト、モ
汚、氣、を、平、生、に、変、ハ、ラ、ス、只、々、以、帰、京
ア、ラ、セ、ラ、レ、タ、リ、不、取、敢、上、申、ス

發保局長 澁賀縣發部長
廿四年五月十一日辰七時四十五分発

先行者ハ重傷ナレドモ只今ニニハ余
ニハ別条ナキ模様ナリ

宮内省

十二日
宮内省
其後少
御内省

加
御
成
凡
御
療
治
御
寢
相
成
凡

十二日午前四時五分
宮内大臣 齋藤式部
御療治御寢相
成凡

五月廿二日午時五刻

内務大臣

兵部事務

露國軍艦ハ士官教名昨午五時過京
都ニ行キ同九時半士官二十名計本
午五時過中ニ二十名計京都ヨリ帰艦
セシ 迄ニテ目下ニ異状ナシ

廿二日

五月十二日 午前十一時三十分 午後三時五分 着

只今皇太子殿下御目覚相成り昨夜九時
間御安眠遊サレ御着熱在セラレズ御氣分ヨ
ロシ右申上

京都

高橋式部官

左之侍次官

香川白皇宮入史

五月十二日午後十二時十五分
午後一時十五分着

皇后陛下

威仁

露國皇太子殿下、只今御會中せし、
御發熱モナレ、御様子平生ト異ナラス、
御痛モ無キ由申述ヘラレタリ、甚安心仕ル

宮内省

無母家ニシテ其母ニシテ
後継ナリトシテ其母ニシテ
其母ニシテ其母ニシテ
其母ニシテ其母ニシテ

皇太后

二

皇太后

皇太后

五月十一日午後二時十分

皇太后

皇太后

法皇ニシテ其母ニシテ其母ニシテ
其母ニシテ其母ニシテ其母ニシテ
其母ニシテ其母ニシテ其母ニシテ
其母ニシテ其母ニシテ其母ニシテ

五月廿七日午後四時三十分迄

野保白長

千葉抄本

本抄の序論長及副議長より露宮皇子太子殿下
狂人の為りは難難此迄痛嘆、至りて堪へサル旨
ノ露報慰問ヲ發し且露國公使館訪問ノ為ノ右
正副議長只今出立セリ

五月十四日午後四時

終保白長

三重不詳却長

津田三蔵ハ正直ノ剛ハアリ五年陸軍ニ入り兵年ヨリ
 軍曹ニ進ミ勲七等ヲ受リ十二年滿期解隊其後本
 館此查五度奉職其間奉任セシコトアリ其兄桑名一モ
 奉任セシコトアリ去ル一日午前十一時頃保白九日午
 後五時頃五テリ滞在中親屬ノ者、今夜露國皇
 太子殿下ニ西御カ徑テ来ント新聞ニアルカ果シテ左
 様ナレハ我々ニ賜ヒシ勲章ノ標奪セラレ、モ計
 リ難シ且露國ヨリ来ルハ東シヨリ来ルカ當此ナルニ
 西ヨリ来リ殊ニ席見島ニ立寄ラレハ不審ナリト
 雜誌ノ間ニ活セシコトアリ其他同様者等ノ有ル

権様ナシ

露艦水兵二万人入京ノ事實阿合ニ對スル
兵隊亦亦事ニ回答 亦リキ年所亦時ナク後

露國水兵ノ件は阿合ノ趣キハ全ク無根
ナリ軍艦ノ警動ハ至ラ静肅ナリ

五月十三日午後七時在

警保局長

滋賀県警部長

先行者目下、容体別急ナシ先分ノ手当
中ナリ又其犯ノアハ模様ハ即今ナシ



第百四十四号

五月十二日午後十時五分

至 十二日午後十一時十分着

後記あり、五甲記

京都

宮内書記官 山内式部官

陛下ノ御訪問ハ明朝午前ノ事ニ
定ル皇太子殿下御容儀ハ續テ
御安静ナリ

宮内省

五月十二日午後十一時
聖王益々御機嫌能々
アウセシレ直午ニ露國
ノ管ノ處同殿下ノ御都
ノ管十

加西輔卿

子出大進

五月十三日午前。時
五月十三日午前。時
五月十三日午前。時

弟志年

弟志年

五月十二日午後十一時

五月十三日午前。時

花方宮中次官 土方大臣

聖王益々御機嫌能々
アウセシレ直午ニ露國
ノ管ノ處同殿下ノ御都
ノ管十

五月十三日午前十一時五分發 京都御所
花房宮内次官 山崎書記官

昨夜停車場へ露國公使モ殿下ノ御名代トシテ奉
迎拜謁ヲ賜ヒ今十三日午前十一時五十分
御出門ノ御訪問ノ筈御容態宜ニキ様子ナリ



第十七号

五月十三日午前十時三十五分殺

午後十二時着

花房次官

京都

池田侍医

香川大夫

橋本顧問

高木総監

露國皇太子昨夜御安眠御氣分宜リ御食氣
進ニ体温脈搏等御平常ノ如クナリ

官内省

五月十三日午前十一時十分發同四十分著

香川大夫

齋藤式部官

齋藤式部官

五月十三日午前十一時十分發同四十分著

第十六号

第十六号

五月十三日午前十一時十分發同四十分著

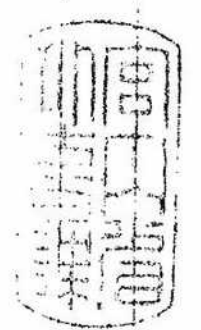
京都

花房次官

齋藤式部官

香川大夫

飛路國皇太子殿下御容体只今同殿下御附ノ医官へ聞キ合ハセシ處昨夜モ御安眠脉搏体温温トモ平常ニ変ハラセラズ御氣分モ宜クニ右申上



宮内省

〇 御發本 御目ロシキオキニ 九月廿五日夫又言上レ
 只今 御國 皇太子 變下ハ 御意 聞クニカニ
 於此 御臣 衣河 御意 御意 御意 御意
 同 〇 午後 御意 御意 御意
 九月廿三日 御意 御意 御意
 御意 御意

第廿八號

五月十三。 午後 三時廿五分發

四時七分着

京都

川上中將

三宮外子 輝長

花之房 次官

香川 大吏

露國 皇太子 殿下ハ 御療治ノ 爲メ 神戶 港ニ
 御歸リ 御乗艦 相成 爲メ 今 午後 四時 三十分
 京都 御發車
 聖上 三三 神 戶 迄 御同伴 在ラセラル。 是也

第廿七号

五月十三日

午後六時四十分發

同

午後七時五十六分著

京都

橋本宮中顧問官

花房宮内次官

香川皇后大夫

露國皇太子殿下養生ノ為ノ午後四時發
ノ汽車ニテ神戸碇泊ノ軍艦へ歸ヘラレタリ

御事課

西下白粉大臣
青木弘毅大臣
五月十四日
午後二時

西下白粉大臣
青木弘毅大臣
五月十四日
午後二時

暗号電信談

西下白粉大臣
青木弘毅大臣

林有造品と事

五月十四日三時廿五分

魚の艦隊ハ、アラカン高島ヨリ石山岨ニ至ル
夜出発残りニ、吹ハ本日十時ヲ以テ、
入リ、軍艦ハ不詳、明日ララジラスト
リニ向テ出発スルトノ以テ、ア

五月十四日午後五時五分午後

宮内省

花房 以官

神戸 西村

三宮 市部 次長

香川 大吏

露國皇太子殿下は容体ハ日愈々輕少ニシテ是は障ナレ
本ヨリ始メテ 綱帶ヲ撫ワセラレタレトモ其痛モナクは熱
モナシ亦威仁親王殿下ヲ接伴員ヲ午祭ニ召サレ
以機嫌 麗シク話シアリ 進ニ其病ニ趣カセラレ

第八号



五月十五日土時廿五分

四時 着

花房次官

土方正臣

威仁親王ヲ露國、差遣ワサル、ニツキ、
密顧問官海軍中將接奉武揚、持
別隨行シ、御付ラレタリ、又能久親王、
露國皇太子殿下御相伴、御付ラレタリ、
右夫レ、一言上、通知ス

五月十七日午後三時五十分京都府

宮内書記官

供奉者以下

東に二十日京都 御書中 静園御泊二
十二日御帰京、御内定、付至殿河内
御用品差出方御達ニマシ

宮内省

五月十九日午前十一時
同日十二時
同日十三時
同日十四時
同日十五時
同日十六時
同日十七時
同日十八時
同日十九時
同日二十時
同日二十一時
同日二十二時
同日二十三時
同日二十四時
同日二十五時
同日二十六時
同日二十七時
同日二十八時
同日二十九時
同日三十時

五月十九日午前十一時
同日十二時
同日十三時
同日十四時
同日十五時
同日十六時
同日十七時
同日十八時
同日十九時
同日二十時
同日二十一時
同日二十二時
同日二十三時
同日二十四時
同日二十五時
同日二十六時
同日二十七時
同日二十八時
同日二十九時
同日三十時

神戸御用邸

香川大夫

三宮亮

本日午前九時三十分京都御役車御用邸へ
御着ノ上十二時三十分露皇太子殿下御訪
問艦中ニテ皇太子殿下ヨリ午餐ノ御饗
應在ラセラル、箸ニテ御用邸ニ於テ午餐
ハ殿下ノ御都合ニ依リ御止ノ事ニ相ナ
リタリ此旨言上アリタシ

第十七号

五月十九日午後三時發

三時三十分著

神戸御用邸

花房次官

土方宮内大臣

聖上十二時三十分露國皇太子殿下御召艦
ニ成ラセラレ午後二時十五分御滞リナリ御用邸へ
還御アラセラレタリ夫々言上アレ委細後トヨリ

五月十九日午後五時四十分
西郷自太子殿下御乗船四時十分
右 上申云

五月十九日午後五時四十分
西郷自太子殿下御乗船四時十分
右 上申云

五月十九日午後五時四十分
西郷自太子殿下御乗船四時十分
右 上申云

五月十九日午後五時四十分
西郷自太子殿下御乗船四時十分
右 上申云

宮内省

五月廿九日

午後五時五十分

天皇陛下ハ本日露國皇太子陛下ヲ午後五時五十分

午後八時五十分

召見ナリ

五月廿九日午後五時五十分

召見

午後八時五十分

天皇陛下ハ本日露國皇太子陛下ヲ午後五時五十分

召見ナリ

午後八時五十分

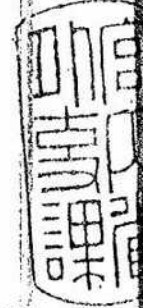
召見ナリ

午後八時五十分

召見ナリ

午後八時五十分

至大ナルヘシ、ニコラス）依テ 陛下ニハ皇太子殿下ノ御
 招待ヲ受ケサセラルベキ事ナリ、本ヨリ午前五時御参内、同日九時三十分
 分京御所参申、神戶ヨリ御参内、同日九時三十分
 三時三十分陛下ノ御参内、アゾー号ニ成ラセラルベキ御
 食アリ、尋ニ御参内、上ノ午後二時三十分御参内、同日
 用御所参内、同日三時三十分御参内、同日三時三十分
 所城壕外ノ還参、アラセラルベキ事ナリ



五月十九日午後六時三十分發

京都

花房宮内次官 土方宮内大臣

威仁親王殿下并ニ榎本枢密顧問官露
 國へ差遣ハサル、義免セラレ上ノ御沙汰アラセラ
 ル旨御沙汰アラセラレタリ、齋藤ノ隨行モ免
 ジタリ、委細ハ郵便

内務省

警保局長

京都府警部長

五月廿一日午前六時十分發

全八時二十分着

昨午後八時頃、千葉縣長狹郡加茂川町畠山文治郎姉エウ子ナル者、當府廳門前ニ於テ自殺セリ、其趣意ハ露皇太子殿下カ御遭難ノタメ東京ニ御出デナキヲ愁ヒ来京シタルモ、御發艦ノ後ナルヲ以テ死ヲ決シタルモノ、如ク數通ノ書置アリ、委細郵便

警備局長

大津

大浦局長

五月廿六日午後十時

左 十時廿九分

公判ハ更ラニ明日正午ヨリ開始
トシテ決ス

電報譯

内務大臣

長崎におも事

平の兵に在野は下

露國皇太子殿より当長崎市ト
 キ山中遊あ校、洋銀千ドル御下賜お
 事(之ヲウヅガカロプリノズバハリマキニムキヨリ)
 金多送付与リテ在港露公使等
 應、持冬(シムルニ付)金多受取
 市長、下役之曰、欲事、少及マシ一
 謝、申出べ置(シ)り、右不取敢申ス

伊藤 子白 少孫

少孫

電信 亦日之なる

日四日多香十ノ可
四十五分とある

高田 外務大臣の書翰

高田 二君の書翰

高田 公の書翰

稽古記

西三良